



鏡野町長
山崎 親男

新年あけましておめでとうござい
ます。

皆様が健やかに新年を迎えられま
したことを心よりお慶び申し上げます。
皆様には、平素より、町政運営に
多大なご理解とご協力を賜り、厚く
お礼を申し上げます。

昨年は、7月の西日本豪雨をはじめ、台風、北海道胆振東部地震等自然災害の大きさを痛感し、自然との共生を改めて考えさせられた一年でありました。被災されました皆様方に心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興をお祈りします。町内におきましても、平成10年以來の大災害に見舞われ、現在、復旧に向けて鋭意取り組んでいるところでございます。

国内の情勢に目を向けますと、平成から新しい元号に変わることとなり、新たな気持ちで新年を迎えていますが、秋には消費税の増税を控え、景気の冷え込みが心配されています。しかし、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックの開催、そして、二〇二五年には大阪国際博覧会の開催が決定し、増税を吹き飛ばしてくれる景気浮揚を期待しているところでございます。

さて、町ではこれまでに、鏡野町第二次総合計画、かがみの創生総合戦略に基づき、健康づくりや子育て支援、産業の振興など様々な施策に取り組んできました。健康づくりでは地域社会全体で町民個々の健康づくりを支援していく体制づくりを進め、健康づくりに対する意識の高揚を図られ、子育て支援では、放課後児童クラブの新設、増改築により小学校6年生までの受け入れが可能となりました。また、産業関係では、起業家支援事業により新規創業者も徐々に増え、地域で活躍する人が増えつつあります。

これまでの取り組みの一端を申し上げます。鏡野町には四季ごとに美しい景観やいろいろな体験をして楽しめる施設、人情味があふれ、誰にでもやさしく接することができ、風土があります。このような鏡野町の魅力を国内外に発信し、鏡野町の素晴らしさをより知っていただき、多くの方々に鏡野町を訪れていただきたいと考えています。そのために、各種施策に今まで以上に力を入れ、次代を担う子どもたちが将来に希望をもてるまち、誰もが住んで良かった、住み続けたいと感じられるまちづくりにまい進してまいりますので引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

結びになりますが、本年が皆様にとりまして幸多き年となりますよう心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。

新年のごあいさつ



鏡野町議会 議長
岸 泰廣

新年あけましておめでとうござい
ます。

平成31年の年頭にあたり議会を代表いたしまして、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様には、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、全国各地で大規模災害が頻発し、鏡野町においても7月の西日本災害で大きな被害が発生しました。

あらためまして、被災された皆様にお見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い復旧、復興と生活の再建をお祈りいたします。同時に的確な災害対策の実現のために、議会としても尽力をして参りたいと考えています。

さて、本年は元号の改正が予定されておりますが、昨年は、国政においては、第4次安倍内閣が発足し、憲法改正や安全保障をめぐる議論が加速されつつあります。

一方、私たちの生活に直接影響のある消費税の増税が10月から実施され、また、東京オリンピック・パラリンピックの開幕が2年後に迫っています。

国では「地方創生」の推進が打ち出され、国と地方が情報を共有し、地方自らの考えで行動し、成果を出す姿勢が求められている中で、町としては「かがみの創生総合戦略」により、今後も様々な施策を推進して行き、町民の声を的確に反映させることが町議会の責務であると考えております。

こうした中、本町では合併から13年目を経過し、更なる発展をすべく各種施策を展開しているところですが、過疎化、少子高齢化の進展に伴い、課題が山積しているところでもあります。

議会といたしましても、議会改革による活性化を図り、議員自らが研鑽を重ね、活力ある町づくりに新たな決意を持って取り組み、住民福祉の向上にむけて力を合わせて、努力して参る所存であります。

新元号となる、特別な年を迎えるにあたり、心を新たに、わが町の躍進の年となるよう、議会も町民の皆様と共に歩んで参りたいと思います。

本年も皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。

